

sangetsu

Environmental
Report
2020

環境レポート

編集方針

サンゲツグループは、当社の企業価値や中長期的な成長性を重要なステークホルダーの皆さまにご理解いただくため、年1回「SANGETSU REPORT」を発行し、財務情報と非財務情報についてあわせて報告しています。当社では、社会的課題やステークホルダーの皆さまの期待・要請に基づき、環境面におけるマテリアリティ（重要課題）を特定し、新たに長期ビジョン【DESIGN 2030】、中期経営計画(2020-2022)【D.C.2022】を策定しています。本報告書は、重要課題に沿って2019年度の実績と主な取り組みを中心に報告しています。

報告対象範囲

株式会社サンゲツ

対象期間

2019年4月1日～2020年3月31日

※一部2020年4月以降の活動も含まれます。

発行月

2021年1月

参考としたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン2012年版」

環境省「環境会計ガイドライン2005年版」

将来の見通しに関する注意事項

本レポート内に記載されている株式会社サンゲツの現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報に基づいた仮定および判断です。

SDGs への貢献

2015年9月、国連総会にて「持続可能な開発目標 (SDGs)」が採択されました。SDGsでは持続可能な世界に向けて取り組むべき17の目標と169のターゲットが掲げられ、国だけでなく、企業にも積極的な関与が求められています。サンゲツグループは事業活動を通じて、社会的責任を果たしながら目標達成に貢献していきます。「豊かな生活文化の創造」を目指す当社グループでは、「目標11:住み続けられるまちづくりを」をはじめ、事業活動とかかわりの深いSDGsの目標に重点を置き、その解決に貢献していきます。



INDEX

- P04 トップメッセージ
- P05 環境方針
- P10 地球温暖化防止
- P17 循環型社会の実現
- P23 商品を通じた地球環境保全
- P36 化学物質、生物多様性
- P40 その他の活動
- P42 開示データ

環境保全

トップメッセージ



代表取締役 社長執行役員
安田正介

持続可能な社会の実現に向けて

近年の自然災害の激甚化に象徴されるように、今や気候変動問題は、人類共通の重要課題となっています。SDGsでは、「気候変動及びその影響の軽減」「持続可能な生産消費形態の確保」など、環境保全を含む持続可能な世界に向けて取り組むべき17の目標と169のターゲットが合意されており、国だけでなく、企業にも積極的な関与が求められています。建設関連企業や住宅メーカーからも、ロングライフ商品や環境負荷の少ない商品が、より一層求められるようになりました。

こうした社会や地球環境に関する課題解決は、サンゲツグループにおいてもESG課題における重要なテーマと捉えています。この認識のもと、2020年5月にはサンゲツグループ長期ビジョン【DESIGN 2030】を策定し、今後サンゲツグループが実現

を目指す社会的価値として、「みんなで (Inclusive) 、いつまでも (Sustainable) 、楽しさあふれる (Enjoyable) 社会の実現」を掲げました。住宅や商業、オフィス、ホスピタリティ産業など、あらゆる建築物に対して、SDGsのゴール11「住み続けられるまちづくり」(Sustainable)をはじめとした事業活動と関わりの深い目標に重点を置き、その達成に向け貢献してまいります。

その内のひとつとして掲げている「Sustainable (いつまでも) : 地球環境を守るサステナブルな社会の実現」では、気候変動、海洋・土壌汚染などに加え、高齢化・人口減少の深刻化、首都圏への人口集中などによって増加している使用されない住宅・建物に対し、サプライチェーン全体の環境負荷を低減することとともに、長く使い続けられる空間の創造を通じてストック建築物の有効活用を進めていくことで、地球環境を守るサステナブルな社会の実現に貢献します。

そして、環境面におけるマテリアリティとしては、①事業活動における環境負荷の低減 (GHG、エネルギー、廃棄物、リサイクル率)、②サプライチェーンにおける環境負荷の把握と低減、③ロングライフ商品の拡充、④見本帳の回収・リサイクルの拡大、の4つの課題を特定しました。中期経営計画【D.C. 2022】では、これらの課題への対応方針、定量・定性目標、改善計画を設定し、課題解決に向けた取り組みを進めております。

CSR/ESG活動をグループ全体で推進し、社員一人ひとりが誠意を持って社会や地球環境に関する課題解決に取り組んでいくことは、持続可能な社会の実現を達成するために大きな意味を持つものであると同時に、グループ全体の企業価値向上につながるものであると確信しています。サンゲツグループはこれからも、持続可能な社会の実現に向けた着実な取り組みを進め、すべてのステークホルダーの皆さまとともに、新しい価値創造のよろこびを分かち合える企業になることを目指してまいります。

環境方針

サンゲツグループ企業倫理憲章

企業は社会の公器であり、健全な事業活動を通じて収益をおさめ、活力ある発展と社会への還元を図らねばなりません。サンゲツグループは、その基本的な考え方に基づき、価値ある商品とサービスを提供することにより、豊かな住生活の実現に寄与し、社会に貢献します。

そしてその実現にあたって、サンゲツグループでは「企業倫理憲章」として5つの原則を掲げ、持続的発展に向けて自主的に行動します。

地球環境を守るために

地球環境問題への取り組みは、企業の存在と活動に必須の要件であることを認識し、自主的、積極的に行動します。

※ 「サンゲツグループ企業倫理憲章」から、環境に関する記載を抜粋

環境方針

当社では、環境保全に取り組んでいくことは、より良い住空間を提供する企業として当然の責務と考え、環境理念・環境方針を定めています。この方針に基づき、環境マネジメントシステムを運営し、継続的な環境保全活動を推進します。

※ 2001年6月「ISO14001」認証取得

基本理念

サンゲツは、快適な住空間の提供を通じ、より豊かな生活を実現するための役割と責任を担っている。当社の事業活動は環境との関わりが深く、その活動の中で環境保全に取り組んでいくことは、企業として当然の責務である。これらの観点から、自らの事業活動における環境負荷の低減はもとより、地球環境の保全に配慮し、より良い住環境の創造に努める。

基本方針

1. 環境マネジメントシステムの推進にあたり、環境目的及び環境目標を設定し、継続的改善を行い、企業活動と地球環境保護の両立を図る。
2. 適用可能な環境保全に関する法令及び当社が同意する要求事項を遵守する。
3. 商品の開発、生産、流通、使用、廃棄のすべての段階において、環境影響要因物質の使用の回避、廃棄物の削減、リサイクル、省エネ・省資源に努める。
4. 環境方針や環境管理活動への社員の理解と意識の向上を図るとともに、関係者へも環境方針を周知し、理解と協力を要請する。
5. この環境方針は、一般に公開する。

ESG/CSR方針

中期方針

1. サンゲツグループの事業全体の環境負荷を把握。
2. 地球温暖化防止や持続可能な資源循環に向けての体制を構築。

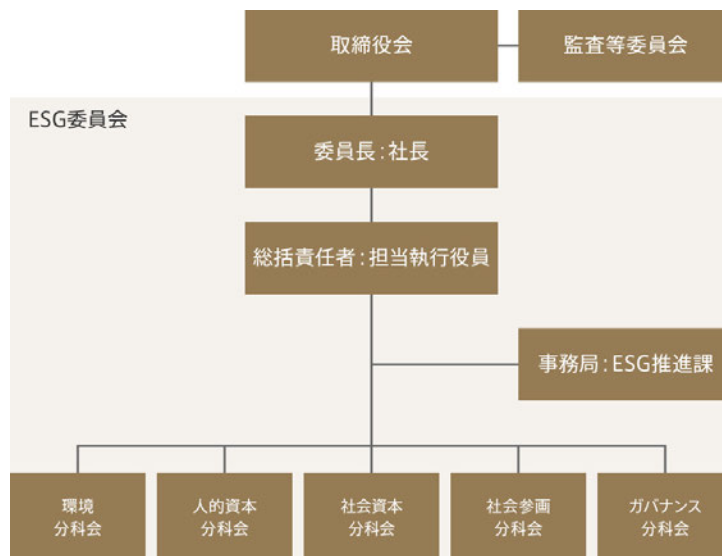
実践内容

- ①事業活動における環境負荷の低減
 - GHG排出量の削減
 - エネルギー使用量の削減
 - 廃棄物総廃棄量の削減
 - リサイクル率向上
- ②サプライチェーンにおける環境負荷の把握と低減
 - サプライヤーごとのGHG原単位の把握と、調達活動での考慮
- ③ロングライフ商品の開発・拡充
 - 高耐久性商品の開発、長期継続品の拡充
- ④見本帳の回収・リサイクル体制の構築と拡大

ESGマネジメント体制

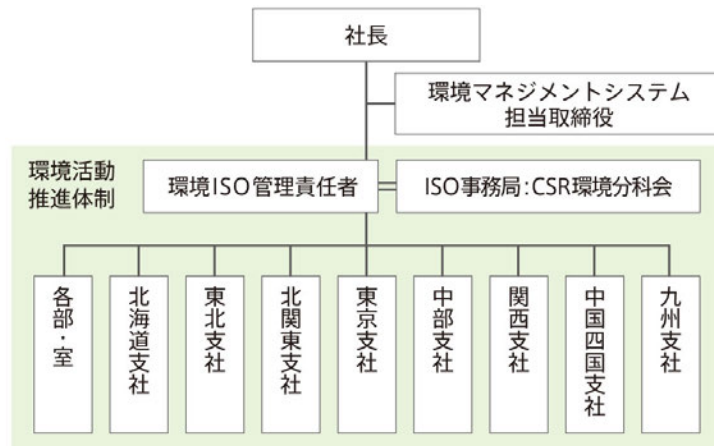
当社は、企業の社会的責任を果たすため、2016年4月にCSR推進課を新設、2017年4月には全社を横断的に統括するCSR委員会を設置するとともに、さまざまなCSRガイドラインに対応すべく、分科会を設置しました。その上で、実効的なCSRマネジメントを行いCSR体制を強化、社会課題解決に向けた取り組みを進めています。気候変動を含めた環境課題については、環境保全分科会での取り組み事項として上位機関を通じて取締役会への報告と対応を行っています。

2020年11月からは、ESG全般を推進する部署としての位置づけを明確にすることを目的として、ESG推進課、ESG委員会に名称変更しております。



環境マネジメント推進体制

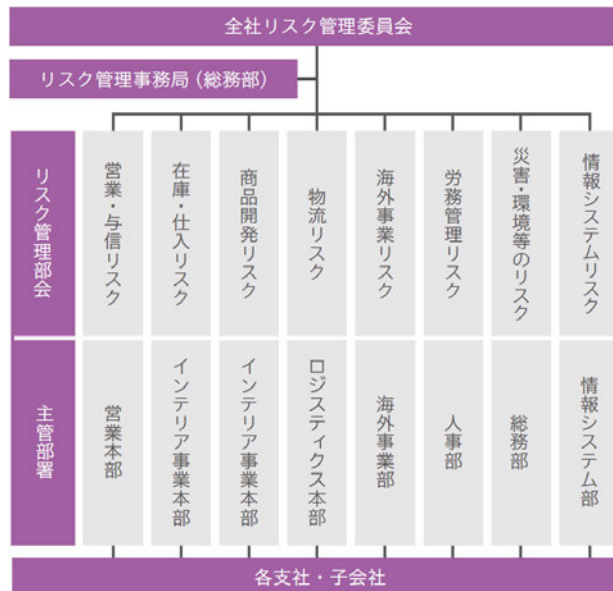
当社ではISO14001の認証を取得しています（認証範囲の従業員比率38.5%）。環境マネジメントシステムを統括する環境ISO管理責任者のもと、これを補佐するISO事務局を設置し、各事業所において環境活動を実施しています。



※ ISO14001の認証範囲（本社、中部支社、中部ロジスティクスセンター）

気候変動／環境リスクマネジメント体制

当社では、気候変動を始めとする環境リスクを事業運営に障害を引き起こすリスクとして考えています。特に気候変動の原因となる事業活動に伴うGHG排出量を管理し、目標値を設定して排出量低減活動を行っています。その活動の進捗状況は、災害等リスク部会からリスク管理委員会に報告され、さらに取締役会においてリスク管理委員会から報告、管理監督を受けています。



サプライチェーンマネジメント

当社の事業活動は商品開発・流通を主体としています。

商品製造については仕入先に委託していますが、高品質で環境に良い商品を提供するために、商品のライフサイクルを通じた環境負荷低減活動を継続する必要性があると考えています。

これまで当社は、当社基準の評価項目に沿って仕入先評価と工場運営の改善・環境対応・商品の品質向上につなげてきました。また、中部ロジスティクスセンターIIに環境試験室をはじめとする試験施設を設置の上、適切な品質管理体制を整備しています。現在、当社ではサプライチェーンにおけるCSRへの取り組み強化に向け「サンゲツCSR調達方針」および「サンゲツお取引先さま向けCSRガイドライン」を策定、仕入先の対応状況についてアンケート調査を実施し、必要に応じて訪問指導を行うなどの対策を講じることで、環境対応についての体制づくりを進め、環境負荷低減を推進しています。

マテリアリティ（重要課題）

当社では、環境面における重要課題を以下の5つと捉え、それぞれの課題に対して取り組みを行ってまいります。

重要課題

地球温暖化防止

課題	GHG排出量の削減/エネルギー使用量の削減
2019年度目標	GHG排出量：35%減（売上原単位2010年度比） エネルギー使用量：33%減（売上原単位2010年度比）
2019年度実績	GHG排出量：45.3%減（売上原単位2010年度比） エネルギー使用量：34.7%減（売上原単位2010年度比）
2020年度目標	GHG排出量:5%減（2018年度比） エネルギー使用量：2%減（2018年度比）
中長期目標	GHG排出量：2022年度10%減、2030年度30%減（2018年度比） エネルギー使用量：2022年度4%減（2018年度比）

※ ※エネルギー使用量はサンゲツ単体のスコープ1&2を対象としています。

環境負荷の把握

課題	サプライチェーンの環境負荷の把握
2019年度目標	単体：スコープ3開示、グループ会社：環境基礎データ把握
2019年度実績	スコープ3：399,393t-CO2、一部グループ会社の環境基礎データ把握
2020年度目標	サプライチェーンGHG削減に向けた体制の構築、自社の水利用把握と対応

資源循環

課題	廃棄物総廃棄量削減/リサイクル率の向上
2019年度目標	廃棄物総廃棄量：15%減（売上原単位2010年度比） リサイクル率：70%
2019年度実績	廃棄物総廃棄量：5.5%増（売上原単位2010年度比） リサイクル率：80.1%
2020年度目標	廃棄物総廃棄量：2%減（2018年度比） リサイクル率：81%、見本帳リサイクル体制の構築
中長期目標	廃棄物総廃棄量：2022年度4.0%削減（2018年度比） リサイクル率：2022年度83.0%

生物多様性と化学物質による汚染の回避

課題	化学物質の適正管理
2019年度目標	ホルムアルデヒド放出量の計測・監視継続、化学物質の使用状況の把握
2019年度実績	ホルムアルデヒドの継続・継続監視完了、仕入先に毒物及び劇物の使用状況を確認
2020年度目標	ホルムアルデヒドの継続監視、管理対象物質の把握、サプライチェーン化学物質管理

商品を通じた地球環境保全

課題	省エネ、省資源、ロングライフ商品の開発
2019年度目標	環境配慮商品の開発、商品環境情報の数値化と開示
2019年度実績	光拡散壁紙でのCO2削減量の開示、カーペットタイルNT3000ecoでのエコマーク取得、再生糸100%カーテンの開発
2020年度目標	環境商品売り上げ比率の把握、環境配慮商品の開発

地球温暖化防止

地球温暖化防止に対する考え方

地球温暖化による気候変動は、人間の生活や自然の生態系にさまざまな影響を与えています。その地球温暖化の主たる原因は温室効果ガス（GHG）であり、この温室効果ガス（GHG）を削減させることは企業における社会的責任であると考えています。

サンゲツから排出される温室効果ガス（GHG）は、主に事務所、倉庫にて使用するガス・灯油、営業車両等で使用するガソリン・軽油等（※1スコープ1）、また事務所、倉庫にて使用する電気を起源とした温室効果ガス（※2スコープ2）で構成されております。温室効果ガス（GHG）を削減させるためには、エネルギーを最小限に無駄なく有効活用することが必要であり、エネルギー削減を推進することが地球温暖化防止、地球資源の有効活用に繋がると考えております。

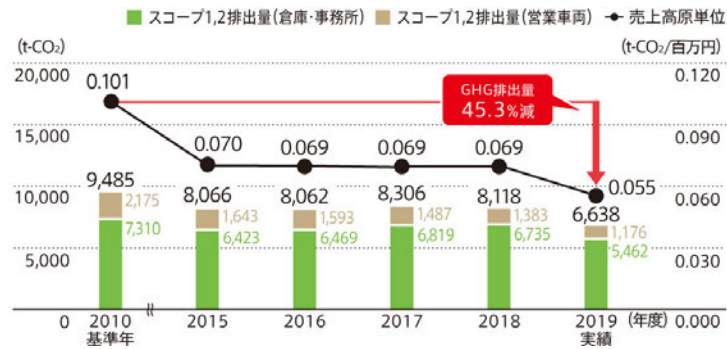
※ 1.スコープ1…サンゲツの事業活動による排出、燃料使用に伴う直接排出

※ 2.スコープ2…外部から購入する電力や熱の使用に伴う間接排出

エネルギー使用量／GHG排出量

	2019年度 目標	2019年 度 実績	2020年度 目標
エネルギー使用 量	省エネ法分野において 売上原単位で2010年度比33% 減	34.7%減	2020年 2%減（18年度 比） 2022年 4%減（18年度 比）
GHG排出量	スコープ1,2において 売上原単位で2010年度比35% 減	45.3%減	2020年 5%減（18年度 比） 2022年 10%減（18年度 比） 2030年 30%減（18年度 比）

温室効果ガス (GHG) 排出量の推移



※ 1 温室効果ガス排出量の計算にあたっては、実排出係数を利用しています。

※ 2 スコープ1,2において算出しています。(スコープ1…サンゲツの事業活動による排出、燃料使用に伴う直接排出。スコープ2…外部から購入する電力や熱の使用に伴う間接排出)

事務所・倉庫 (省エネ法対象) のエネルギー使用量の推移



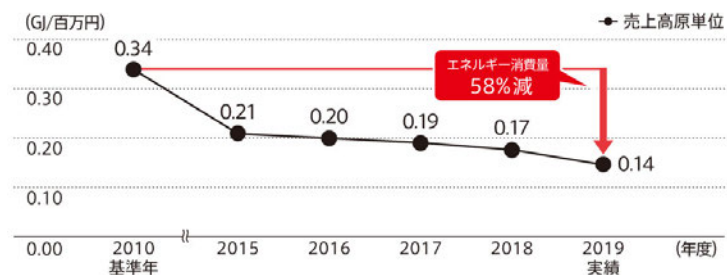
エネルギー使用量・GHG排出量の削減に向けた取り組み

取組① 社有車両における低燃費への推進

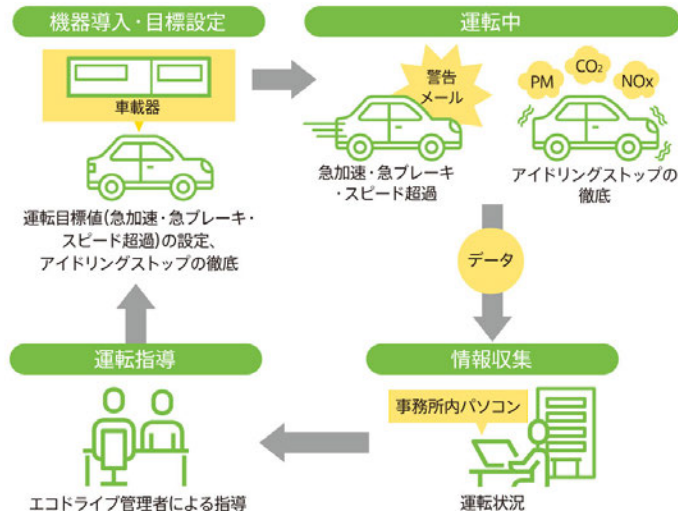
営業車両においてハイブリッド車両を中心とする環境対応/低燃費車への全面移行を進めています。2019年度には全車両の約32%に相当する151台の移行を完了しました。2022年度には対象車両すべてを移行させる予定です。

また全営業車両にGPSを利用したテレマティクスを装備させ、急加速・急ブレーキ・スピード超過等の情報を本社にて収集し、安全管理とともに温室効果ガスの削減に繋がるエコドライブを強化しています。これらの施策をとった結果、2019年度の燃費は対策前の2014年度と比較して29%改善しました。これにより、営業車両等のエネルギー消費は、原単位(売上高)で2010年度比58%減となりました。

営業車両等のエネルギー消費推移



テレマティクスの仕組み



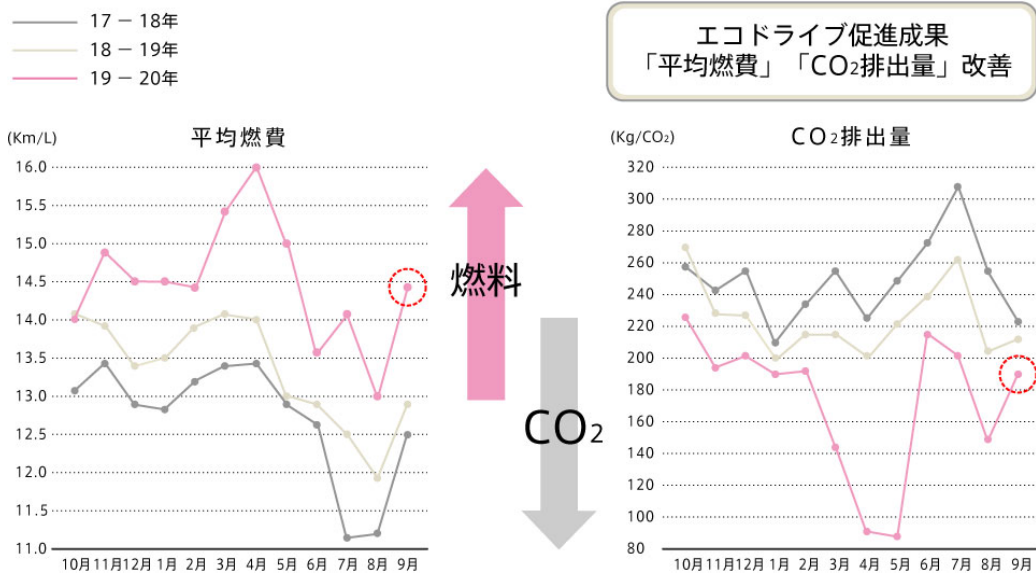
2018年度エコドライブ活動コンクールにて環境大臣賞を受賞

サンゲツではこの度、2018年度エコドライブ活動コンクール（主催：公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団）の一般部門において、最高賞となる「環境大臣賞」を受賞しました。

2015年から「エコドライブ活動」をスタートし、全車両へのテレマティクス、ブレーキアシストなどの車両装備を整えるとともに、社員一人ひとりが自分事として取り組めるよう啓蒙活動にも力を入れてきました。その結果コストの大幅削減、燃費やCO2排出量の改善につながり、今回のコンクールではこの全社員での取り組みを評価して頂くことができました。

今後も「サンゲツ環境方針」にもとづき、地球環境の保全に配慮し、持続可能な社会の実現に向けて、エコドライブの推進に取り組んでまいります。

直近3年間（2017年10月-2020年9月）の燃費／CO2排出量



授賞式の様子



11月28日に行われた受賞式当日では、「テレマティクスの全車導入を始めとするハード・ソフト、そして体制を整え、社内報を通じてマンガ等での楽しい工夫をしつつ、成果を明確にされた優れた取組みは非常に参考になる。」と、ご評価いただきました。

[エコドライブ活動コンクールに関する情報 >](#)

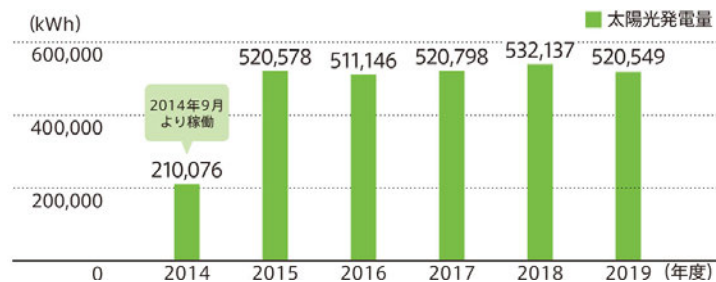
取組② 太陽光発電によるエネルギーの創出

2014年に愛知県稲沢市に位置する当社の物流拠点中部ロジスティクスセンターⅠの屋上に2,170m²の太陽光発電パネルを搭載し、自然エネルギーの有効活用に取り組んでいます。2019年度は、520,549kWhの電力を発電しました。これは、一般家庭の170世帯の年間電力量に相当します。

※ 参考：一般家庭（30A契約）1世帯あたりの1ヵ月分の使用電力量255kWh（2014年度、東京電力）



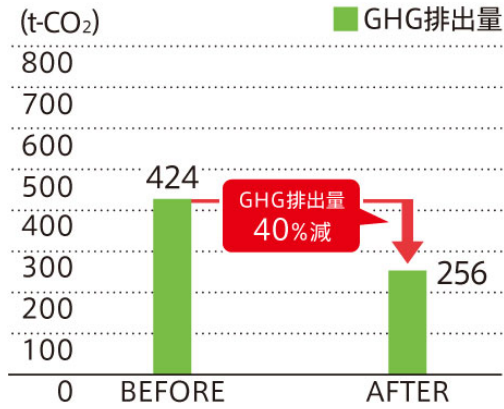
再生可能エネルギー発電量の推移



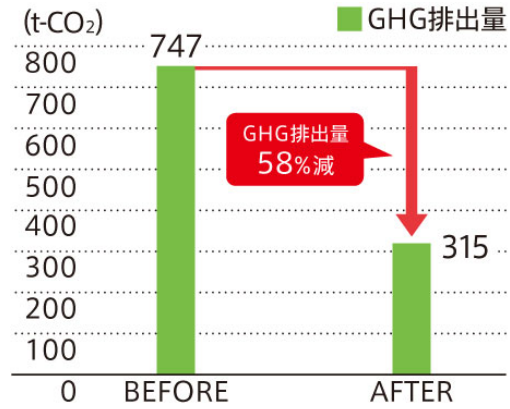
自社物件の修繕計画に合わせた省エネ設備の導入

当社の社屋の多くは自社物件です。この自社物件の計画的修繕に合わせて設備の省エネ化を進めています。直近の修繕計画に伴う設備の更新においては、各支社の照明ランプのLED化で約220t-CO₂の削減、本社の誘導灯のLED化で約4t-CO₂の削減、本社のエレベーターの主要備品交換に伴う省エネ化で約5t-CO₂の削減、関西支社の空調設備の更新で約170t-CO₂削減、中国四国支社の空調設備更新で約430t-CO₂削減しました。今後も、建物設備修繕計画に合わせて省エネ設備を導入し、GHG削減活動を進めていきます。

関西支社の空調機更新の効果



中国四国支社の空調機更新の効果



※ GHG排出量の計算は、温室効果ガス排出算定・報告・公表制度の「算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧」を基に、電気部分は2017年度提出用の排出係数の代替値で計算しています。

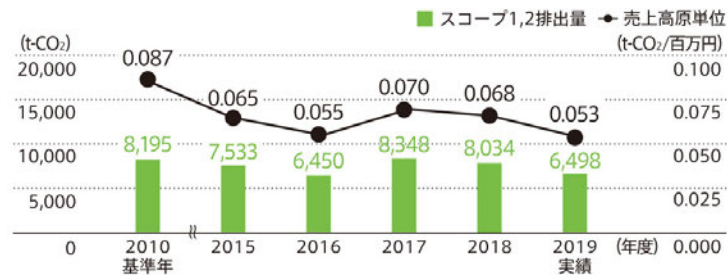
取組③ 新電力の導入

当社のスコープ1,2におけるGHG排出量のうち、約7割が電気使用によるものです。GHG排出量の削減にあたっては、電気使用量の削減だけでなく、GHG排出量の少ない電気を購入することもGHGを削減する1つの手段と考えています。

当社では2016年1月より、電気を多く使う高圧電力の拠点を、CO₂排出係数の少ない新電力へ供給先の切替えを随時行っています。引き続き、“環境負荷の少ない電力購入”へ取り組んでいきます。

※ 調整後排出係数：電気を作り出す際にどれだけの二酸化炭素を排出したかを推し量る係数で、京都メカニズムクレジットや国内認証排出削減量等が反映させた係数。

調整後排出係数で計算したスコープ1、2温室効果ガス排出量の推移



取組④ 電気使用効率の向上

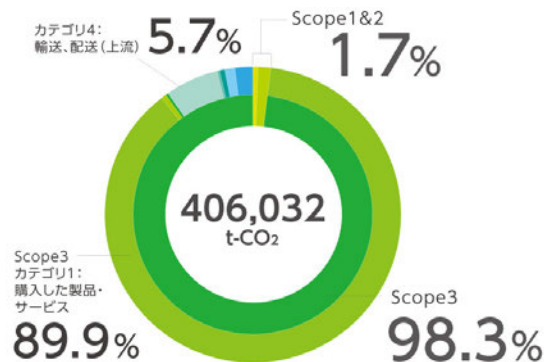
設備等を更新するハード面での取り組みだけでなく、運用によってエネルギーを削減するソフト面での対策も推進しています。自社製品である遮熱フィルムをガラス面に施し空調効率を向上、またデマンドコントローラー導入により最大電力の制御、冷暖房温度の上げ下げや、運転時間の短縮等の空調管理の厳密化、クールビズ・ウォームビズの積極的導入、働き方の見直しを実施しています。

2018年度においては、クラウド化によるサーバーの削減、省電力タイプパソコンの全社導入などのエネルギー削減により、事業所・ロジセンターでのCO₂の排出削減を進めています。

スコープ3への対応

当社グループでは、事業活動が及ぼす環境影響を抑制すべく、2017年度よりサプライチェーン全体における温室効果ガス（GHG）排出量「スコープ3」の算定を開始しました。サプライチェーンにおけるCO2排出量を見える化することで、温室効果ガスの継続的な削減に貢献していきます。

サプライチェーン	カテゴリ	項目	CO2排出量算定対象
	スコープ1		2,365
	スコープ2		4,273
スコープ3	カテゴリ1	購入した商品・サービス	365,166
	カテゴリ2	資本財	836
	カテゴリ3	スコープ1,2に含まれない燃料およびエネルギー関連活動	1,297
	カテゴリ4	輸送、配送(上流)	23,041
	カテゴリ5	事業から出る廃棄物	1,419
	カテゴリ6	出張	207
	カテゴリ7	雇用者の通勤	440
	カテゴリ8	リース資産(上流)	0
	カテゴリ9	輸送、配送(下流)	1,390
	カテゴリ10	販売した製品の加工	4,228
	カテゴリ11	販売した製品の使用	算定対象外 ^①
	カテゴリ12	販売した製品の廃棄	1,368
	カテゴリ13	リース資産(下流)	算定対象外 ^②
	カテゴリ14	フランチャイズ	算定対象外 ^③
	カテゴリ15	投資	算定対象外 ^④
	スコープ3合計		399,393
	サプライチェーン排出量		406,032



- ※ 1.販売している製品は、壁材、床材、ファブリック（カーテン、イス生地等）等の中間製品であり、直接使用段階にエネルギーを使用する製品ではなく、間接使用段階の排出であるため算定対象から除外しています。
- ※ 2.他社に賃貸しているリース資産（建物）はありますが、全てにおいて電力使用がスコープ2に含まれているため算定対象から除外しています。
- ※ 3.フランチャイズによる運営を行っていないため算定対象から除外しています。
- ※ 4.本カテゴリは主として民間金融機関（商業銀行）のカテゴリであるため、算定対象から除外しています。

サプライチェーンにおける温室効果ガス（GHG）排出量の把握

原料調達・製造・物流・販売・廃棄までの一連の流れで発生する排出量をサプライチェーン排出量といいます。地球温暖化防止に向けてGHG排出量を削減していくためには当社の事業活動のほか、関連事業者におけるGHG排出量を算定することが必要です。

よって、2017年度よりサプライチェーン全体におけるGHG排出量を算定・開示しています。（仕入れ額を元にした簡易算定）

しかし、サプライチェーン全体でのGHG排出量削減を進めて行くうえでは、仕入れ先の削減努力を反映させる必要がある為、仕入先ごとのエネルギーデータ等を元にした詳細なスコープ3（カテゴリ1）の算定を進めています。

2017年度には「サンゲツCSR調達方針」および「サンゲツお取引先さま向けCSRガイドライン」を策定し、当社グループ会社や主要なお取引先さまにガイドラインを遵守していただくよう働きかけています。お取引先さまとともに持続可能な社会の実現へ貢献していきます。

循環型社会の実現

資源循環に対する考え方

世界的に人口が増加し、経済発展や利便性の追求により、資源消費のスピードが上がっています。このまま大量採掘が続けば資源は枯渇しかねません。事業活動の中で発生する資源の調達・廃棄において、資源が循環する仕組みを考える必要があります。当社では持続可能な資源循環を目指し、“2050年にゼロエミッション”に向けて努力します。

資源循環への取り組み

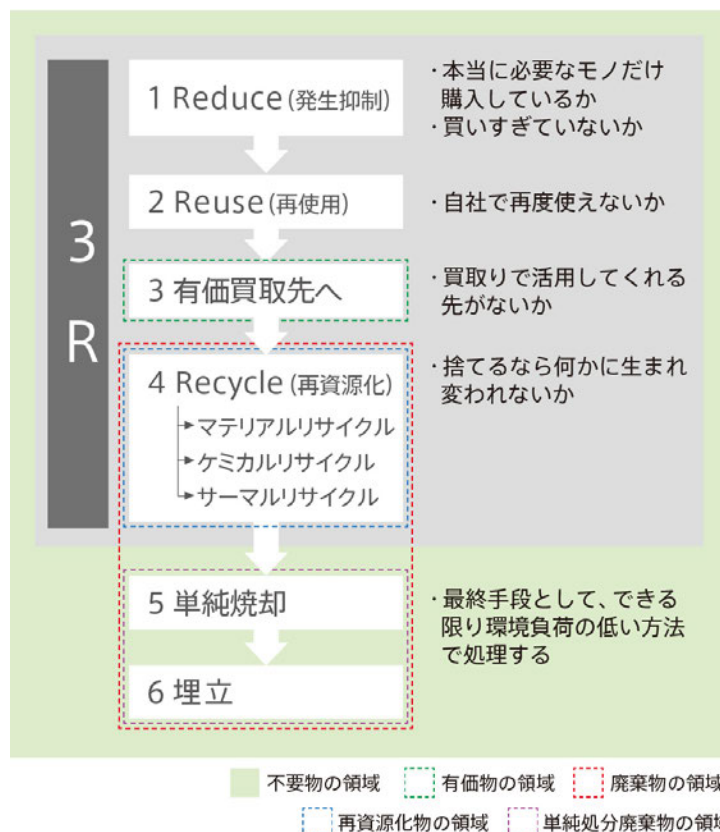
3R (Reduce、Reuse、Recycle) 活動

事業活動の上で発生する不要なモノのなかには、再使用、再利用できるものが多くあり、捨てれば廃棄物となりますが、再使用、再利用すれば地球から資源を削る量は少なくなっていきます。これまでも廃棄物削減、リサイクル活動を進めていましたが、2016年度環境保全分科会にて、考え方を整理して不要となるモノを種類別に特定させ、3R (Reduce、Reuse、Recycle) の考えに基づき、廃棄物の削減、処理方法の改善など、資源循環を推進しています。

買取りリユース・リサイクルされるモノを有価物、廃棄物としてサーマル、マテリアル、ケミカルリサイクル処理されるモノを再資源化物、どうしてもリサイクルできず単純焼却、埋立するモノを単純処分廃棄物と呼び、リサイクル率※の向上を目指しています。

※ リサイクル率：(再資源化物+有価物) / (再資源化物+単純処分廃棄物+有価物)

当社の廃棄物管理（循環型社会への取り組み）の考え方



TOPICS

東北ロジスティクスセンターでは、業務から発生する産業廃棄物の分別・見える化及び廃棄物の有価売却化に取り組みました。

見える化では、地図や番号や写真を用いて廃棄物の種類ごとの分別方法を明確にすることで、表示に従った分別の徹底とともに、廃棄物の有価売却化も進みました。

このような取り組みの結果、2019年度は前年比27トンの廃棄物削減、処理費用は約140万円の削減を実現しました。

<対象名>
紙梱包資材

<回収業者・方法>
〇〇商会
クロスロール空き袋、
Hフロア正反外袋紙含む
指定パレットへ保管 ④

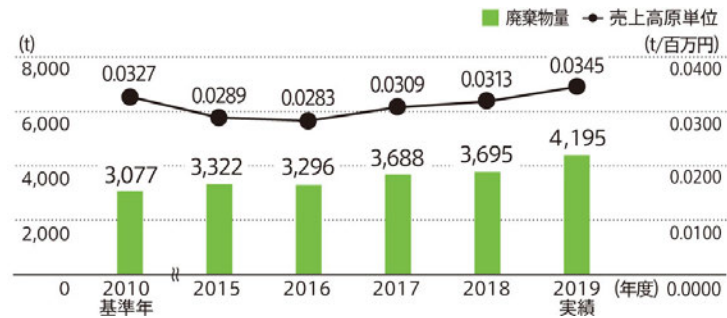
<回収日>
月・水・金

<主な排出先>
Hフロア入庫場、クロス出荷場

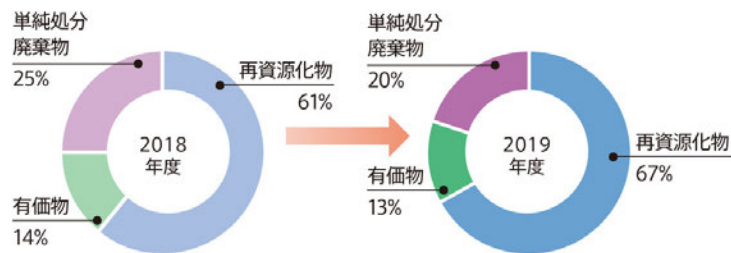


〈廃棄場所〉	1F	外
保管場所に回収用の表示を掲示しておりますので表示に従ってごみの分別を行って下さい 〈その他の回収場所〉 トン袋類は溜まったら廃棄コンテナ裏の⑥の場所にトン袋を持って行って下さい	返品場所	⑤ ラミクロス
	返品場所	④ 紙梱包資材
入荷事務所	③ 紙類	産業廃棄物 ⑥ トン袋 ⑦クロス ⑧見本箱 ⑨フロア類
	② 段ボール類	
	① 一般ごみ	
	EV ポンプ室	

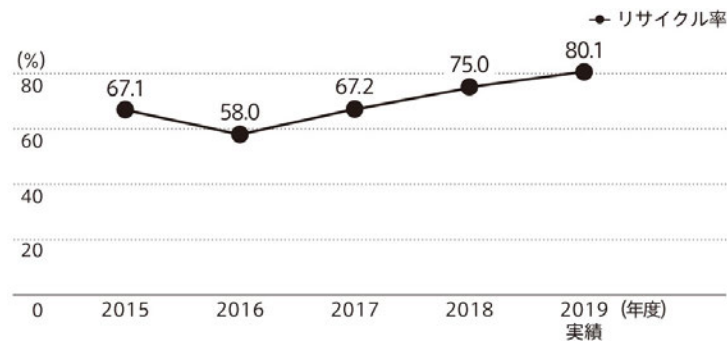
廃棄物排出量の推移



産業廃棄物の内訳



リサイクル率の推移



ユニフォームのケミカルリサイクル

2017年度、ロジスティクス部のユニフォームをリニューアルしました。新しいユニフォームは環境負荷面も考慮してリサイクル素材を選定、古いユニフォームはすべてケミカルリサイクルしています。この結果、衣料製品を通じて55%のCO2排出削減に貢献しました。



見本帳を利用した社会貢献および循環型社会への取り組み

当社で発刊する見本帳は、お客さまに商品の色、質感が伝わりやすいように台紙に壁紙、床材、ファブリック等の素材の現品を貼って製本しています。利用期限が切れた見本帳は、福祉施設にて障がい者の方の自立支援活動に役立てられます。

具体的には、自立支援プログラムの一環として、障がい者の方が見本帳の解体や、台紙と現品見本の剥がし作業を行い、剥がし終わった台紙は古紙買取業者に有価引取され施設の収益となり、現品見本はリサイクル処理を行っています。

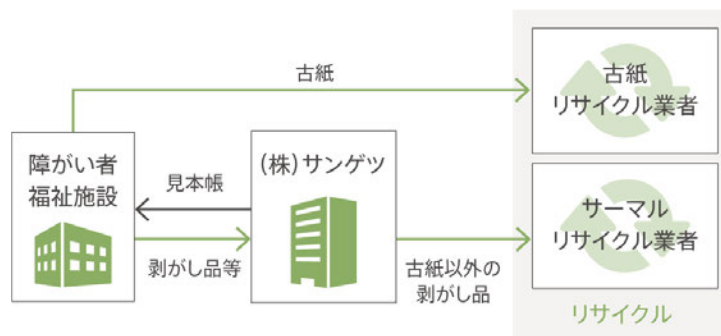


台紙から現品見本を剥がしている様子



分別された状態

見本帳リサイクルフロー





当社では、環境保全への取り組みの一環として2000年10月より「サンゲツカーテン・エコプロジェクト」を進めています。右記のような専用タグラベルが付いているカーテンについては、当社が責任を持って回収し、自然環境保護の観点から、なるべくゴミを増やさない処理を実施しています。



表面 (例)



裏面 (例)

回収の手順



回収したカーテンは素材、加工状態の違いによってそのリサイクル処理法が異なります。当社では、再資源化するケミカルリサイクル、固形燃料など熱源にするサーマルリサイクルに分類しています。

リサイクル活用法

ケミカルリサイクル
回収したカーテンを再資源化します。

サーマルリサイクル
回収したカーテンを固形燃料化して熱エネルギーにします。



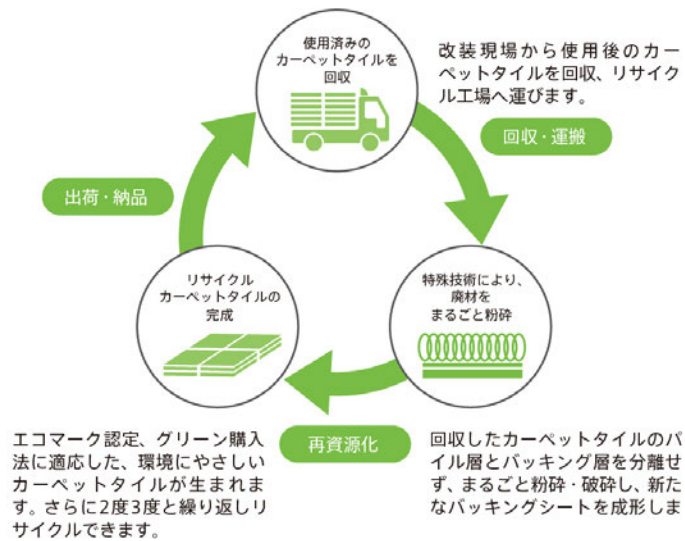
- ※ 出荷ロスなど端材のリサイクルも含まれます。
- ※ 回収したカーテンは商品のリサイクル方法ごとに分別したうえで、リサイクルを行っています。
- ※ リサイクル活用法については、技術革新やその他の理由で変更になる場合があります。

カーペットタイル・リサイクル

カーペットタイル(NT-250ecoシリーズ)は、フル回収・ゼロ廃棄・100%リサイクルが可能です。タイルのパイル層とバックング層とを分離せず、まるごとムダなくリサイクルするため、分離に伴うエネルギー消費および廃棄物の軽減を実現しています。



カーペットタイル・リサイクルの仕組み



※ 出荷される商品はカーペットタイル以外の再生材料も使用していますのでお含みおきください。

廃番商品・商品端材の有効活用

当社商品は、新しい見本帳に改訂されると、その新見本帳に収録されなかった従来の商品は、廃番商品となり、市場の流通に乗らないデッドストックとなってしまいます。

また、カットロスなどで発生する端材は、素材としてはしっかりしているにもかかわらず、インテリア商材として販売できるサイズに満たないなどの事情により、廃棄処分（多くはマテリアルリサイクル）しています。一方で、そういった「もったいない」素材を有効活用する取り組みを地域の企業とコラボレーションして進めています。

○捨てる廃材をバッグへ～アップサイクル～

工場から出る端材や廃棄物を活用したエコプロダクツの企画・販売を手掛ける株式会社ウェイストボックス（名古屋市中区）の企画により、廃棄していた重歩行フロアやクッションフロアをバッグや雑貨の材料として活用しています。

エコブランドショップ「MODECO（名古屋市中区）」にて、アイテムの企画・製造・販売を行っています。



床材を使用したビジネスバッグ

地元保育園・学童保育所への旧展示商品の提供

ショールーム展示品の切替えに伴って生じる旧カーテン生地を本社近郊の保育園・学童保育所に寄贈しています。これらのカーテン生地は、従来は廃棄処理されていたものですが、各施設では備品や玩具への装飾、園児・児童達の創作品として利用されています。展示品の再利用を通して近郊保育園・学童保育所との交流を行っています。



商品を通じた地球環境保全

商品を通じた地球環境保全

当社が提供する商品の多くは、環境に配慮した形でお客さまに使用されます。環境配慮型商品を3カテゴリ+1で定義し、環境配慮商品の開発・販売を通じて、地球環境・生活環境の向上に貢献しています。



1 省エネ

インテリアにおいては、主に窓や床面などからの熱損失を軽減することが、省エネにつながります。



2 省資源

商品の寿命を長くすることで、施工から貼り替えまでのサイクルを長くし、ライフサイクルで考えた場合の環境負荷低減を実現します。



3 ロングライフ

商品の寿命を長くすることで、施工から貼り替えまでのサイクルを長くし、ライフサイクルで考えた場合の環境負荷低減を実現します。



【+】生物多様性とのかわり

当社商品の多くは、塩ビを主原料とする石油化学製品です。加工がしやすくデザインの再現性が高いのが特徴です。動物の生命を脅かしたり、希少木種を伐採したりといった形で自然資源を使用するのではなく、自然のデザインを塩ビ製品で再現することで、その美しさを感じることができる良質な商品を提供しています。こうした商品開発により、生物多様性の保全に寄与しています。

環境商品インデックス

	商品名	省エネ	省資源	ロングライフ	生物多様性 とのかかわり
壁	SP (軽量タイプ)	●	●		
	EBクロス	●	●	●	
	フィルム汚れ防止壁紙			●	
	スーパー耐久性			●	
	ハードウォール			●	
	ウレタンコート壁紙			●	
	ヒカリケア (光触媒)			●	
	スーパーストレッチ壁紙			●	
	エコリフレクト (光拡散)	●			
窓	遮熱レースカーテン	●			
	遮熱ロールスクリーン	●			
	ナノレッド (蓄熱)	●			
	多機能レース (カイトキFR)	●			
	低放射ガラスフィルム	●			
床	カーペット	●			
	グラニット		●	●	
	フロアタイル (2.5mm厚)		●		
	リサイクルバックキング仕様 カーペットタイル	●	●		
	原着ナイロンカーペット・ カーペットタイル	●		●	
	ノンスキッドフロア (室内用除く)	●			
全般	「自然」モチーフのデザイン				●

※ 主要商品の抜粋です。

商品の環境ラベル

エコマーク認定商品

エコマークは、第三者機関である公益財団法人 日本環境協会の認定により付与される環境マークであり、環境ラベル表示のタイプIとして運営されています。商品の「生産」から「廃棄」までのライフサイクル全体を通して環境への負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた商品につけられます。2010年に、商品類型 No.123「建築製品」の改定が行われ、我々の住環境を支える「建築資材」や「建築設備」を対象に、数多くの建築製品が追加されました。今回の改定で、その中心となったのが“塩ビ建材”です。塩ビを主要な材料として使用する「建築資材」や塩ビ製品を部材として使用する「建築設備」で、新たに10製品がエコマーク対象製品となり、その認定基準が制定されました。

新たに対象となった製品には「塩ビ系床材」が含まれており、当社の主力商品の一つとなります。当社では、現在コントラクトカーテンとカーペットタイル、ニードルパンチカーペットに該当商品がありますが、今後認定商品の拡充を推進していきます。



2020年6月現在

グリーン購入法適応商品

「環境物品等の調達の推進に関する基本方針」により、一定基準を満たした環境配慮商品に対しては、「グリーン購入法適応商品」とすることができます。当社が販売するインテリア商品としては、「カーテン」「カーペット」「日射調整フィルム」「ビニル系床材」が対象となります。当社では、グリーン購入法適応商品を下記のとおり多数ラインアップしています。



2020年6月現在

【VOICE】環境配慮型商品の開発におけるフロー



インテリア事業本部
品質管理技術室 室長
伊藤 正庸

市場のニーズや外部環境、自社の現状分析を行い新商品の開発計画を策定します。開発計画ではデザイン性や機能性だけでなく、生産性や施工性、過去に発生した商品に対する苦情も加味し、様々な角度からリスクベースアプローチの基で課題を抽出します。検証の過程では様々な課題に対して対策を講じ、試作を繰り返し重ねながら新商品の仕様を決定し、新商品を上市します。上市后、商品の設計品質と市場の評価にギャップがないかを調査し、市場からのフィードバックを次の新商品に活かすというPDCAサイクルのスパイラルアップを意識した商品開発を行っています。

なお、環境配慮型商品の場合は、環境目標と照らし合せて開発計画を策定し、サプライチェーン全体での環境負荷の低減を可能とする商品の開発を進めています。

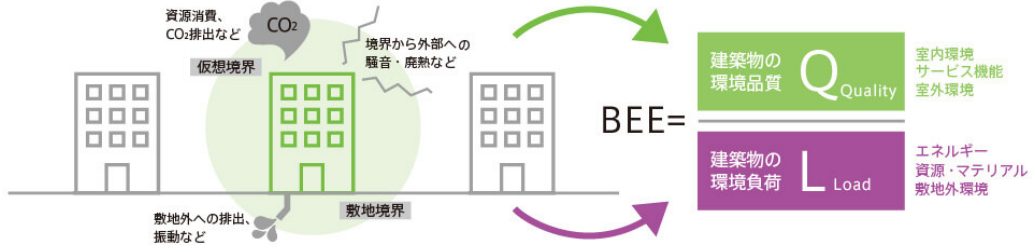
CASBEE（建築環境総合性能評価システム）

CASBEEは、建物を環境性能で評価し、格付けする手法です。省エネルギーや環境負荷の少ない資機材の使用といった環境配慮はもとより、室内の快適性や景観への配慮なども含めた建物の品質を総合的に評価します。CASBEEによる評価では「Sランク（素晴らしい）」から、「Aランク（大変良い）」「B+ランク（良い）」「B-ランク（やや劣る）」「Cランク（劣る）」という5段階の格付けが与えられます。

CASBEEは、2001年より国土交通省の支援のもと産官学共同プロジェクトとして設置された研究委員会において開発が進められているもので、2002年には最初の評価ツール「CASBEE—事務所版」が、その後2003年7月に「CASBEE—新築」、2004年7月に「CASBEE—既存」、2005年7月には「CASBEE—改修」が完成しました。この「CASBEEの評価ツール」は、①建築物のライフサイクルを通じた評価ができること、②「建築物の環境品質(Q)」と「建築物の環境負荷(L)」の両側面から評価すること、③「環境効率」の考え方をを用いて新たに開発された評価指標「BEE(建築物の環境効率、Built Environment Efficiency)」で評価する、という3つの理念に基づいて開発されています。

分類	項目	評価内容	サンゲツ対象商品
室内環境	1. 音環境	内装材による吸音のしやすさを評価する	カーペット カーペットタイル 吸音カーテン
	1.3 吸音		
	4. 空気質環境	化学汚染物質による空気質汚染を回避するための対策が充分にとられているか評価する	フロアタイル フロア カーペット カーペットタイル 腰壁パネル 腰壁シート 接着剤(ベンリダイン)
	4.1 発生源対策		
サービス性能	1. 機能性	建材選択において維持管理に配慮すべき内容について評価する	防汚機能付カーペット 防汚機能付カーペットタイル フロアタイル・フロア(UV塗工、PU加工品) 汚れ防止壁紙 フロア立上げ施工
	1.3 維持管理		
	2. 耐用性・信頼性	主要内装仕上げ材の更新必要間隔を「内装仕上げ材の貼り替えもしくは表面部材の交換などについての必要間隔」とし、その長さを評価する	フロアタイル フロア カーペットタイル ビニルクロス
	2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		
LR2 資源・ マテリアル	2. 非再生性資源の使用量削減	非構造材におけるリサイクル資材の使用状況を評価する	エコマーク認定商品 グリーン購入法適応商品
	2.4 非構造材におけるリサイクル材の使用		
	2. 非再生性資源の使用量削減	解体廃棄時におけるリサイクルを促進する対策として、分別容易性などの取り組みについて評価する	カーペットタイル かんたんリフォームタイル(リフォルタ) フロアタイルOT
	2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み		
	3. 汚染物質含有材料の使用回避	室内空気質だけでなく広く環境影響を及ぼす可能性のある化学物質の使用削減を評価する	接着剤(ベンリダイン)
3.1 有害物質を含まない材料の使用			

CASBEEのイメージ



LEED (エネルギーと環境デザイン：グリーンビルディング環境性能評価・認証システム)
 米国グリーンビルディング協会 (非営利団体 USGBC : U.S.Green Building Council)

LEED (Leadership in Energy & Environmental Design) は、環境に配慮した建物に与えられる、第三者認証による格付けシステムであり、米国グリーンビルディング協会により開発・運営されています。1998年に新築建築物の評価を対象とした最初の評価ツールが発表されて以降、現在 (LEED v4) では評価対象ごとに5つの認証システムが構築されています。また、LEEDのクレジット (評価項目) は、LEED-BD+Cの場合には7つの評価カテゴリー、58項目に対して評価し、合計ポイントに応じて評価ランクが決定します。

【認証ランク】

40p/Certified (標準認証) 、50p/Silver、60p/Gold、80p/Platinumの4種類

LEED認証システム

評価システム		評価対象
BD+C	建築設計 および建設	新築または大規模改修
		テナントビルのオーナー工事
		学校、小売、データセンター、倉庫、流通センター、宿泊施設、病院
ID+C	インテリア設計 および建設	商業エリア、小売、宿泊施設
HOMES	住宅	住宅
O+M	既存ビル運用 メンテナンス	既存ビル、小売、学校、宿泊施設、データセンター、倉庫、流通センター
ND	近隣開発	新規の土地開発および再開発

LEEDクレジット（評価項目）

評価カテゴリー	評価項目※	必須項目※
Location & Transportation（立地と交通）	8項目（16p）	なし
Sustainable Site（敷地選定）	7項目（10p）	1項目
Water Efficiency（水の利用）	7項目（11p）	3項目
Energy & Atmosphere（エネルギーと大気）	11項目（33p）	4項目
Materials & Resources（材料と資源）	7項目（13p）	2項目
Indoor Environmental Quality（室内環境）	11項目（16p）	2項目
Innovation（革新性）	2項目（6p）	なし
Regional Priority（地域別重み付け）	4項目（4p）	なし
合計 ※Integrative Process 1項目含む	58項目（110p）	12項目

※ BD+Cの場合

使用する建築材料について、床材においては、リサイクル材料の使用やVOC(揮発性有機化合物) 放散量が評価項目とされており、その基準をクリアしたことを示す下記の認証を受けた材料について、ポイントの獲得に寄与することができます。



認証マーク

認証システム	<p>【グリーンラベルプラス】</p> <p>米国カーペット・ラグ協会(CRI : The Carpet and Rug Institute)による認証プログラム。</p> <p>ホルムアルデヒドなど13種類の揮発性物質等の放散量について厳格な基準を定め、この基準をクリアした製品に対して与えられる認証プログラム。</p> <p>※ この認証商品を採用することで、上記クレジットの「Indoor Environmental Quality（室内環境）」の項目でポイントの獲得に寄与します。</p>
サンゲツ対象商品	<p>【全ナイロン製カーペットタイル】</p> <p>パイル：ナイロン100%</p> <p>バックング：PVCとガラス不織布</p>

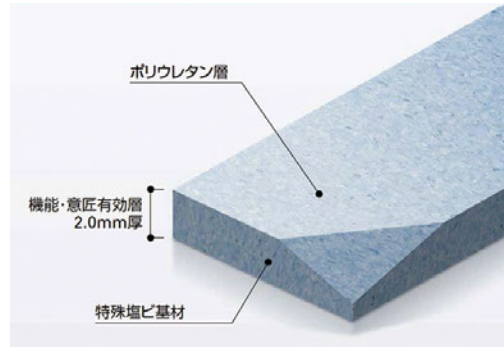
ロングライフ商品

単層塩ビ床材グラニット

グラニット総点数：20点
(2020年6月時点)

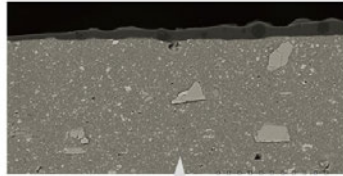
グラニットは、たいへん粒子の細かい塩ビ樹脂、鉱物などを原料とした緻密な単層構造により、表面の凹凸が少なく、汚れや薬品が入り込みにくい商品です。日常メンテナンスでは、表面のふき取りのみで汚れが除去できます。

歩行などの摩耗により表面に傷が生じた場合でも、自動床洗浄機により汚れを落とすつつ表面を磨くことにより、防汚機能を再生できるため、製品寿命を通じて永久ワックスフリーを実現した環境負荷の小さい商品です。

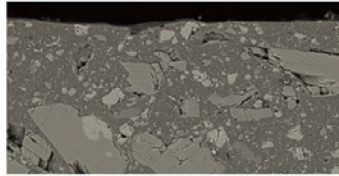


高性能の理由は緻密な単層構造

グラニット



一般長尺シート



粒子が細かく凹凸の少ない表面により、汚れが入り込みにくい構造です。

○ ワックスフリーを実現

ワックス不要、メンテナンスが容易で、廃液（汚水、ワックス、剥離剤）を最小限化します。また、ワックス塗布・剥離のための電力消費を抑えることができます。

○ 環境にやさしい商品

メンテナンスが容易で廃液（汚水・剥離剤等）を最小限にします。床材の長寿命化により余分な廃材も出しません。また、再生塩ビ樹脂系材料を15%以上（製品重量比）を使用したグリーン購入法適応商品です。

○ 優れた耐薬品性・耐動荷重性

消毒液に含まれるアルコールや次亜塩素酸に対する耐久性があります。病院などでしばしば見られる、薬品による床の変色を防ぐことができます。また耐動荷重性に優れ、ストレッチャーや配膳車などが走行する場所でも破損や膨れが生じにくい特長があります。

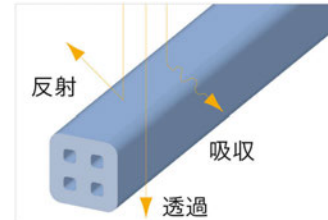
原着ナイロン（6.6ナイロン） カーペット・カーペットタイル

カーペット：21柄48点
カーペットタイル：42柄222点
(2020年6月時点)

当社のカーペット・カーペットタイルは耐候性や耐薬品性に優れた原着ナイロン（6.6ナイロン）を使用した商品を多数展開しています。原着ナイロン（6.6ナイロン）は糸になる前の溶液段階で色を練り込んでいますので、繊維の内部まで染まっており、さまざまな特性があります。

○ 防汚性

当社で使用している四角中空糸は、光の拡散により汚れが目立ちにくい効果を発揮します。がんこな汚れも除去しやすく、本来の色を保ち続けます。



○ 耐久性と弾性回復力

歩行による摩擦がもたらす表面の色落ちが少なく、弾性回復力も優れています。

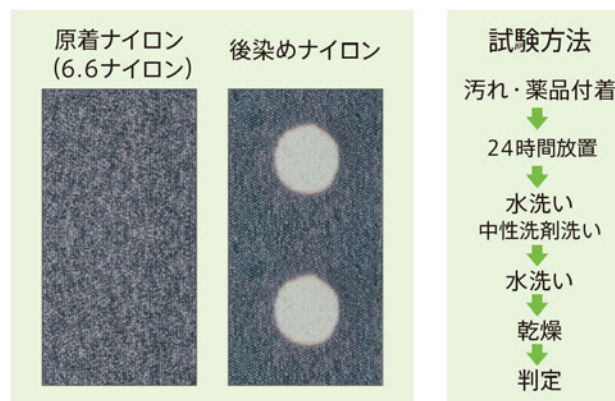
○ 耐候性

直射日光による色褪せが少ない素材です。耐光堅ろう度試験でも性能を実証。開口部の広い空間にもお使いいただけます。

○ 耐薬品性

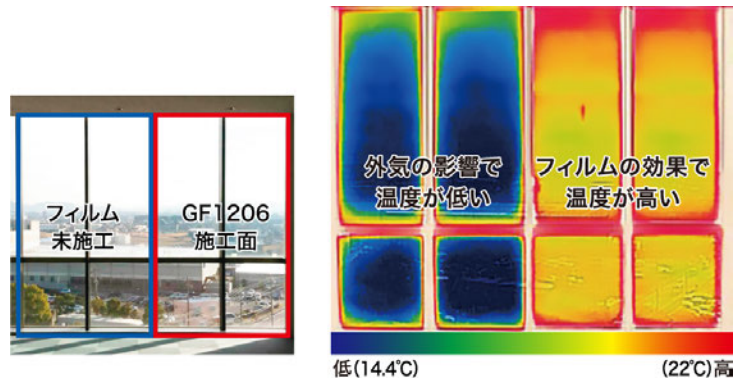
塩素系漂白剤や薬品に対して耐性があり色落ちしにくい素材です。クリーニングに漂白剤を用いる場合も安心です。

塩素系漂白剤滴下試験



低放射ガラスフィルム

低放射ガラスフィルムは年間を通じて省エネ効果を発揮する機能を持っています。夏は外からの熱を遮り、冬は室内の暖気を逃がしにくく、暑さと寒さの両方を軽減することができます。



○夏は涼しく冬は暖かい、省エネフィルム

1. 夏は日射を遮り、室内の温度上昇を抑えます。
2. 冬は室内の暖気を窓から逃さず、室内の暖かさを保ちます。
3. 年間を通じて省エネ効果が期待できます。

【VOICE】年間を通じて省エネ効果を発揮する低放射ガラスフィルム



インテリア事業本部
壁装事業部
商品開発課 課長
坂戸 雅彦

夏も冬も、年間を通じて省エネに貢献できるガラスフィルムをつくりたいという思いから、技術力のある企業と提携して開発した商品が、低放射ガラスフィルムです。従来の遮熱フィルム同様の、夏場の冷房時の省エネ効果に加え、断熱機能も備えているため、冬場の省エネにも効果を発揮します。低放射ガラスフィルムの施工窓の表面温度を測定すると、未施工窓と比較して明らかに高い温度であることが確認できます。私たちはこれからも、快適な室内環境づくりに貢献できる商品を開発していきたいと思っています。

エコリフレクト（光拡散）

室内をより明るくする機能性壁紙です。

高い光の反射を有する特殊配合により室内をより明るくする効果があります。オフィス棟での照明器具の削減、住宅での日中の消灯による電力削減など、省エネ効果が期待できます。蛍光灯・白熱電球・LEDなど幅広い照明器具に対応します。（※特許取得商品）



※上記の試験結果は測定値であり、保証値ではありません。

遮熱レース

シアーカーテン（レース、ボイル、オーガンジー、エンブroidアリー、ケースメント、薄手生地のプリントカーテン）のうち、一般社団法人日本インテリアファブリックス協会(NIF)で制定された基準に適合し、室内温度の上昇を抑制するとともに昼間の室内に適度な明るさを採り入れ、一般のシアーカーテンと比較して節電対策上の相対的効果が認められるものです。

判定基準

- ・遮熱率25%以上
- ・採光率0.6%以上(遮光率99.4%未満)

※試験方法：カケンレフランプ法（インテリア法）

○多機能レース『カイトキ FR』

帝人フロンティア(株)と当社で共同開発した機能性繊維を使用した多機能レースカーテンです。

○光拡散性・採光性・遮像性

室内に自然光を取り入れながら、プライバシー性も確保できます。一般レースに比べて室内が明るくなるので、照明の省エネ効果が期待できます。

○遮熱性・保温性

室内温度の上昇を抑制し、エアコンの省エネ効果が期待できます。また、優れた保温性能により暖房効果を高めることが期待できます。

カイトキ+FR



明るい快適な空間を提案!

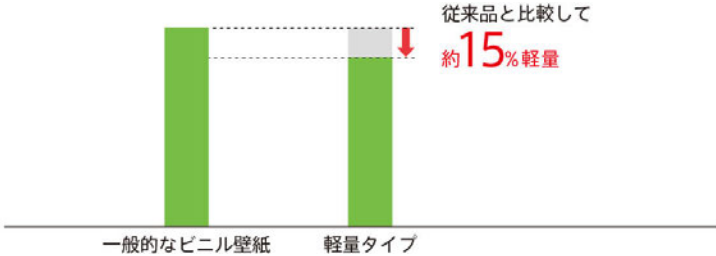
カイトキ+FRの光拡散性
 多機能レース『カイトキ FR』を使用した部屋と、一般レースカーテンと比較すると、お部屋がより明るくなっていることが分かります。

省資源商品

壁紙「SP」に軽量化商品をラインアップ 従来品比：15%減

壁紙「SP」は住宅やマンションなどに多くご採用いただいています。機会あるごとに改良を重ねていますが、2019年発売の「SP」については貼りやすさを追求するとともに、運搬時・施工時の負担軽減をねらって従来品に比べて約15%軽量化した商品をラインアップしています。これにより運搬時の負荷の軽減や職人さんへの作業効率アップが期待できます。

壁紙「SP」の重量比較



床材ノンスキッドフロアの軽量化 従来品比：15%減

ノンスキッドフロアは屋外でも使用可能な、マンションおよび各種施設用の防滑性ビニル床シートです。2016年発売のノンスキッドフロアにおいては、従来品に比べて平均約15%の軽量化を実現しました。これにより、運搬・搬入・施工時の環境負荷および作業負荷の軽減が期待されます。

床材フロアタイルの軽量化、

CO2削減カーボンフットプリントマーク取得

従来品比：重量17%減/CO2排出量14%減

フロアタイルについて、省資源化やCO2削減を目的に1995年から全厚3ミリを2.5ミリへ変更し、約17%の省資源化を実現しました。

単に薄くするだけでなく、表面クリア層を0.3ミリに設計することで、従来の耐久性は維持しながら環境負荷を軽減しました。

カーボンフットプリント（CFP）とは、経済産業省および関連省庁の推進する仕組みで、ライフサイクル全体で排出される温室効果ガスの排出量をCO2量に換算し、マークなどを使って分かりやすく表示するものです。2013年7月サンゲツでは、フロアタイルで初めて“カーボンフットプリントマーク”を取得しました。一般的な全厚3ミリのタイルに比べ、製品の原材料調達から製造、物流、廃棄に至るまでのライフサイクルで1㎡あたりのCO2排出量を3kg削減しています（削減率14%）。



製品名		3.0mm厚フロアタイル	サンゲツ 2.5mm厚フロアタイル
製品型式		ZF0203	NK-715 (2011-2013)
CO ₂ 排出量		22kg-CO ₂ e/㎡	19kg-CO ₂ e/㎡
製品仕様	寸法	457.2×457.2×3.0mm	457.2×457.2×2.5mm
	重量	1,060g/枚	883g/枚
	梱包数	18枚/ケース	18枚/ケース

※ 2.5mm厚・3.0mm厚・いずれも同条件でデータ取得の上、同一のPCR（認定番号：PA-CL-01）を用いて算出し、検証を受けた数値で比較しました。

【社会的価値の創出 Environment】

東洋文庫ミュージアム「ガラスフィルム」（透明遮熱/低反射）

東洋学の専門図書館ならびに研究所である東洋文庫ミュージアムのリニューアルにおいて、当社商品を多数ご採用いただきました。オリエントホール正面窓には室内の明るさを維持しながら遮熱効果を発揮する「透明遮熱フィルム」を使用。ガラスの温度上昇が少なく日射の約50%をカットでき、年間を通じて省エネ効果が期待できる高機能商品です。オリエントカフェ窓面に使用された「ルクリア」はガラス面の反射を抑え、快適な景観づくりに貢献します。



赤坂インターシティAIR「カーペットタイル」

赤坂・虎ノ門エリアにオープンした国際色豊かなハイグレードビル「赤坂インターシティAIR」に、当社カーペットタイル「NTシリーズ」が採用されました。同商品は原糸から染色した原着ナイロン糸を100%使用しており、「防汚性」「耐久性と弾力回復性」「耐候性」などに優れています。環境保全に役立つ商品として「エコマーク認定」も取得し、美しい意匠性だけでなく、内装のロングライフ化といった建物の環境性能にも貢献します。



設計：株式会社日本設計

化学物質、生物多様性

生物多様性に対する考え方

私たちは、地球環境における豊かな自然や様々な生物・生態系から、様々な恩恵を受けています。当社では、その恩恵を受ける地球の企業市民として、生物多様性の保全を重要課題と位置づけ、生態系ネットワーク保護に貢献するため、事業活動を通じた展開と社会貢献活動を推進していきます。

化学物質に対するサンゲツの取り組みについて

EUのRoHS指令やREACH規則に代表される世界的な製品含有化学物質管理規制が強化されるとともに、生物多様性への取り組みが推進されています。また、労働安全衛生の観点からも化学物質の管理が厳しくなっている状況です。このため、企業には化学物質に関する法規制への対応が、これまで以上に求められています。

特に商品の含有化学物質については、ご使用いただくお客様にどのように危険・有害性等、リスクを伝達するかが重要ととらえています。そのために、環境マネジメントシステムにおいて、商品含有化学物質管理の要素を盛り込んだ帳票類を作成しています。化学物質への対応強化による安全安心な商品提供を第一義として、インテリア商品ではAIS (Article Information Sheet) を発行しています。また、接着剤や副資材関係はSDS (Safety Data Sheet) を発行し、GHS (Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals) により、国際ルールに則った、分かりやすい危険・有害性情報等の発信によりリスクを最小限にするために取り組んでいます。

当社商品の含有化学物質管理について

当社商品の中には、法規制によっては含有させてはいけない物質や、禁止ではないが含有率などの状況を把握し、届出や情報伝達を求められる物質が含まれている可能性があります。当社商品の含有化学物質情報は商品供給メーカーより入手する必要があり、商品供給メーカーは原材料供給メーカーより情報を入手する必要があります。サプライチェーンの情報の流れが商品の含有化学物質規制の遵守を可能にします。

当社商品を安心してご使用いただき、環境に配慮した商品であることを確実にするために、サプライチェーンで共通化された書式・ツールを用いることで情報収集のしくみを整備して行きます。

建築基準法によるシックハウス規制について

2002年7月の建築基準法改正で、室内の環境浄化を目的にシックハウス規制（建材の制限と機械換気設備の設置）が2003年7月に施行されました。シックハウス規制対象となる化学物質は、クロルピリホスとホルムアルデヒドの2物質で、クロルピリホスを添加してある建材は使用禁止、ホルムアルデヒド発散建築材料はランク分けされ、使用面積の制限が設定されました。当社にかかわる建材のうち、壁紙においては第一種ホルムアルデヒド発散建築材料の製品として告示されたことから、壁紙を内装仕上げ材として用いる場合は、製造業者がJISまたは国土交通大臣の認定を取得し、発散等級を明らかにすることが必須となりました。

壁紙を施工する際に使用する壁紙用澱粉系接着剤も「第1種ホルムアルデヒド発散材料」に指定され、面積制限の規制対象品となりました。

ホルムアルデヒドを発散する建築材料は、発散速度性能に応じて「第1種」から「規制対象外」までの4つの種別に区分されます。

居室の内装仕上げ材として、等級表示のない告示対象の建築材料は使用できなくなりました。ただし、部分的な面（柱、廻り縁、窓台、巾木、建具材等）は対象とはなりません。

当社壁装材見本帳に収録される壁紙については、全点シックハウス規制対象外（F☆☆☆☆）の性能を保持し、使用制限が無くお使いいただける商品を提供しています。

リスクアセスメント[※]の義務化について

労働安全衛生法が改正され、一定の危険有害性のある化学物質に対し、事業場での危険性や有害性の調査（リスクアセスメント）の実施が義務付けられました。（平成28年6月1日施行）

1. 表示義務（ラベル表示）対象物質の拡大

危険有害性情報や取り扱い方法について、容器や包装ラベルに表示される化学物質の対象が、これまでの117物質から663物質（SDSの交付義務の対象）に拡大されました。また平成30年7月1日施行の再々改正により、673物質まで拡大されました。

2. リスクアセスメントの義務化

673物質について、これらを取り扱う事業場にリスクアセスメントの実施が義務付けられました。

当社では、これら関連する法令について、随時確認、検討を重ね、ご使用に当たったの注意事項などを分かりやすくお伝えし安心してご使用いただけるように日々取り組んでいます。

※ リスクアセスメント：化学物質の危険性や有害性を特定し、それによる労働者への危険または健康障害を生じるおそれの程度を見積り、リスクの低減対策を検討すること。

商品開発での取り組み

デザイン

地球上に存在している生物は、名前がつけられていないものも含めると2,000万種とも3,000万種ともいわれています。その中で、16,000種以上の生物が絶滅を危惧されています。

当社商品の多くは、塩ビを主原料とする化学製品です。

塩ビ製品は加工しやすく、耐久性も高いことから、建築材料として広く使用されてきました。また、デザインの再現性が高いことから、天然素材の色柄、デザインを模した商品を提供することができるようになりました。

自然資源から希少で高級な天然素材のものを摂取して使用するのではなく、その天然素材ライクでデザイン性の高い商品を使用することで、そのデザインを生活に取り入れる機会をご提供することは、地球の豊かさの源泉である「生物の多様性」の保護に貢献することに繋がると、私たちは考えています。

化学物質の適正管理

世の中には数多くの化学物質が存在し、商品の製造から流通・使用・廃棄に至るまで、生態系のメカニズムと密接な関係にあり、化学物質の適正管理は生物多様性の保全に大きく寄与します。

当社が企画・販売するインテリア商品においても多くの化学物質を使用して製造を行っているため、化学物質の適正管理は、商品を企画・開発し販売を行う当社事業の責務と考えています。当社では工場を持たず、サプライチェーンにおける協力メーカーに製造を委託しているため、直接的な管理を自らが行うことはできませんが、各メーカーでの化学物質の管理状況や、当社向け商品への使用状況を把握し、適正管理に努めています。今後もサプライチェーン各社との連携を強め、化学物質を適切に管理し、インテリアにおいて安心・安全を確保するとともに、生物多様性の保全に注力していきます。

自然保護活動

岩沼千年希望の丘 植樹祭参加

サンゲツボランティアクラブ活動の一環として、東日本大震災沿岸被災地である仙台近郊の岩沼市沿岸部防潮堤への植樹プロジェクトに参加しました。植樹してできた「緑の防潮堤」は津波の威力を減衰させる効果があります。千年先の子どもの笑顔、幸せを願って、約3万本の苗木を沿岸部に植樹しました。



世界遺産「三保の松原」清掃活動

静岡にある世界遺産「三保の松原」において、松林の保全につながる清掃活動に参加しました。松林では、松の木が徐々に枯死する「松枯れ」を防ぐために、定期的に土壌清掃による環境整備が必要であり、松葉の除去作業を行いました。



生物多様性の保全

当社は、人類や地球環境が生物多様性から受ける恩恵を正しく理解・認識し、生物多様性の保全とその恵みの持続可能な利用に努めています。

2019年度は、名古屋市生物多様性センター連携の環境イベント「オオキンケイギク抜き取り会」、「いきもの一斉調査(ひつつき虫)」、「池干し活動」に参加しました。

この活動は今後も継続的に実施していき、いのち輝く森を次世代につなげていきます。



自然保護活動「オオキンケイギク抜き取り会」



いきもの一斉調査「ひつつき虫」



自然保護活動「池干し活動」



今後の活動

当社では、社長を委員長とするESG委員会のもとに環境施策についての検討を行う「環境保全分科会」を設置し、同分科会において生物多様性についての取り組みを進めています。商品デザインや化学物質の適正管理に加え、事業活動を通じた生物多様性の保全活動について今後も活動の幅を広げていくとともに、事業活動によらず、直接的な環境保護活動、生物多様性の保全活動についても、NPO・NGOと連携しながら、ニーズに合った活動を推進していきます。

その他の活動

環境パートナーシップ・CLUBへの参加

環境パートナーシップ・CLUB（EPOC）は、中部地域の産業界が中心となり業種・業態の枠を超えて環境負荷低減活動などに関する研究、交流、実践、そして情報発信を行うことにより「循環型経済社会」の構築を目指して2000年2月に設立され、多種多様な活動に取り組んでおります。

サンゲツは、EPOCの設立趣旨に賛同し、活動に参加しています。



環境パートナーシップ・CLUB概要

設立の目的

産業界の環境オピニオンリーダーが中心となり、エコ・エフィシエンシー(環境効率性)の実現を追求するとともに、中部圏から環境対応に関するさまざまな情報を発信し、世界に誇れる環境先進地域の形成と安全かつ快適な「循環型経済社会」の構築を目指します。

- 環境行動の社会への浸透活動
- 環境マインドに溢れた社会風土づくり活動
- 環境行動に関する情報発信活動
- 環境行動に関する国際交流活動

2030年ビジョン

「環境のわざ」と「パートナーシップ」を活かして持続可能な経済社会の実現へ

企業が培ってきた環境のわざ(成果)を活かして、「低炭素」・「資源循環」・「自然共生」を相互に協調させた「持続可能な経済社会」の構築を目指す。

活動方針

- 環境経営の実践と会員間の連携強化により、産業界全体の更なるレベルアップを図る。
- 事業活動を通じた環境・社会課題の解決、技術革新、イノベーション創出を推進する。
- 会員以外の企業や市民・学校等、地域との交流や情報発信により、環境行動の契機を提供する。

環境プランニング学会との協働

持続可能な社会における、企業の環境経営を促進する人材「環境プランナー」の育成を目的として設立された一般社団法人 環境プランニング学会は、企業や団体および地域において環境配慮活動を促進しています。

当社も、その趣旨に賛同し、環境プランニング学会と協働し、東海地区の環境配慮活動を促進できる人材の育成および活動のフィールドづくりを行っています。



社員による環境講座（東京家政大学）

主な協働および支援活動

- 「環境プランニング学会」と協働での東海地区における生物多様性保全活動
- 社員の環境プランナー資格取得および地域で推進する環境配慮活動に対する支援
- 毎年東京大学で開催される「環境プランニング学会学術講演会」の会場運営支援
- 環境プランニング学会受託の教育プログラムにおいて、東京家政大学での講師活動

開示データ

環境目標／実績

	取り組み課題・目標	2019年度実績	評価	2020年度目標	中長期目標
地球温暖化防止	スコープ1,2のGHG排出量の削減 35%減 (売上原単位2010年度比)	45.3%減 (売上原単位2010年度比)	○	5%減 (2018年度比)	2022年度 10%減 (2018年度比) 2030年度 30%減 (2018年度比)
	エネルギー使用量の削減 ^{※1} 33%減 (売上原単位2010年度比)	34.7%減 (売上原単位2010年度比)	○	2%減 (2018年度比)	2022年 4%減 (2018年度比)
環境負荷の把握	サプライチェーンの環境負荷の把握 単体：スコープ3開示 グループ会社：環境基礎データ把握	スコープ3：399,393t-CO2 一部グループ会社の 環境基礎データ把握	○	サプライチェーンGHG削減に向けた 体制の構築、自社の水利用把握と対応 ①取水・排水の現状把握 (と対応) ②水ストレス地域の特定	—
資源循環	廃棄物総発生量の削減 15%減 (売上原単位2010年度比)	5.5%増 (売上原単位2010年度比)	×	2%減 (2018年度比)	2022年度 4%減 (2018年度比)
	不要物のリサイクル率の向上 70%	80.1%	○	81%	2022年度 83%
	事務用品のグリーン購入 65%	60.3%	×	—	—
生物多様性と化学物質 による汚染の回避	1. ホルムアルデヒド放出量の 計測・監視継続 2. 化学物質使用状況の把握	1. 計画通り進捗 2. 計画通り進捗 毒物及び劇物指定令の一部改正に伴い、 仕入先に対し使用状況の確認を実施	○	1. ホルムアルデヒドの継続監視 2. 管理対象物質の把握 (AIS、SDS) 3. サプライチェーン化学物質管理	—
商品を通じた 地球環境保全	1. 環境配慮型商品の開発 2. 商品環境情報の数値化と開示	・ 光拡散壁紙でのCO2削減量の開示 ・ カーベットタイルNT3000ecoでの エコマーク取得 ・ 再生糸100%カーテンの開発	○	1. 環境商品売り上げ比率の把握 2. 環境配慮商品の開発	—

関連データ

	2017年度	2018年度	2019年度
GHG排出量 スコープ1 (t-CO2)	2,336	2,326	2,365
GHG排出量 スコープ2 (t-CO2)	5,884	5,792	4,273
GHG排出量 スコープ3 (t-CO2)	424,924	401,791	399,393
GHG排出量 スコープ1 & 2 (t-CO2)	8,220	8,118	6,638
GHG排出量 スコープ1.2 & 3 (t-CO2)	433,145	409,909	406,032
エネルギー使用量 (Gj)	132,292	127,535	127,178
リサイクルされた廃棄物の排出量 (t)	2,140	2,463	3,060
非リサイクル廃棄物の排出量 (t)	1,327	1,231	902
有害廃棄物 (医療用、指定有害) の排出量 (t)	0	0	0
廃液の流出量 (m ³)	0	0	0
環境に関する罰金および処罰のコスト (円)	0	0	0

水利用量

単位：m³

	2019年度	
	取水量	排水量
北海道支社 (旭川市、函館市)	10	10
東北支社 (仙台市、盛岡市、郡山市、青森市、山形市)	594	594
北関東支社 (喜久市、前橋市、宇都宮市、水戸市、新潟市、長岡市、松本市)	866	866
東京支社 (品川区、立川市、甲府市、横浜市、厚木市)	2,824	2,824
本社・中部支社 (名古屋市、稲沢市、津市、岐阜市、岡崎市、金沢市、富山市、浜松市、沼津市)	14,745	14,745
関西支社 (尼崎市、東大阪市、京都市、神戸市、和歌山市)	5,196	5,196
中国四国支社 (岡山市、鳥取市、松江市、広島市、山口市、福山市、松山市、高知市、徳島市)	1,065	1,065
九州支社 (福岡市、西彼杵郡、大分市、熊本市、宮崎市、鹿児島市)	1,787	1,787
合計	27,087	27,087

※ 生活用水が中心の為、取水量・排水量は同量としています。

環境会計

※環境省の「環境会計ガイドライン（2005年度版）」を参考に作成しています。

※対象期間は2019年4月～2020年3月とし、集計対象は株式会社サンゲツ単体のみで、グループ会社は含みません。

環境保全コスト

単位：百万円

分類	主な取組み内容	2017年度		2018年度		2019年度	
		投資額	費用額	投資額	費用額	投資額	費用額
事業エリア内コスト		214.3	407.8	221.7	386.5	11.3	366.2
内訳	公害防止コスト	—	25.9	—	1.0	—	1.0
	地球環境保全コスト	214.3	222.4	221.7	222.7	11.3	157.6
	資源循環コスト	—	159.5	—	162.8	—	207.6
上・下流コスト	グリーン購入、商品リサイクル、シックハウス対応等	—	8.7	—	7.7	—	3.5
管理活動コスト	環境マネジメントシステムのPDCA活動、緑化等	1.4	12.6	1.4	9.3	—	5.0
研究開発コスト	環境対応商品の開発等	—	11.2	—	11.9	—	10.2
社会活動コスト	自然環境保全活動、団体への寄付、支援等	—	1.2	—	2.0	—	2.0
環境損傷対応コスト	環境汚染の修復・保全	—	0.0	—	0.0	—	0.0
合計		215.7	441.5	221.3	417.4	11.3	386.9

環境保全効果

分類	環境パフォーマンス指標 (単位)	2017年度	2018年度	2019年度
事業活動に投入する資源 に関する環境保全効果	総エネルギー投入量 (Gj)	132,292	127,535	127,178
	水資源投入量 (m ³)	33,289	26,974	27,087
事業活動から排出する環境負荷 及び廃棄物に関する環境保全効果	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	8,306	8,118	6,638
	廃棄物総排出量 (t)	3,688	3,695	4,195
	総排水量 (m ³)	33,289	26,974	27,087
事業活動から産出する財・サー ビスに関する環境保全効果	商品軽量化による CO ₂ 削減 (t) ※フロアタイル： CFP取得点を算出	22,863	21,720	23,145
その他の環境保全効果	太陽光設置による電 力創出 (kWh)	520,798	532,137	520,549

※ 2019年度は、廃番及び特注品在庫分の増加や本社5階の改装などが増加の要因となっています。

環境保全対策に伴う経済効果

単位：百万円

分類	主な取組み内容	2017年度	2018年度	2019年度
費用削減	梱包資材（床材出荷時の紙管等）リユース	23.3	19.0	-
	エコドライブ化による燃料費削減	5.9	5.5	11.3
収益	太陽光設置に伴う収益	20.2	20.7	20.4
	廃棄物の有価物化による売却益	2.1	2.0	1.8

sangetsu

株式会社サンゲツ

総務部

〒451-8575

名古屋市西区幅下一丁目4番1号

TEL : 052-564-3314

www.sangetsu.co.jp